



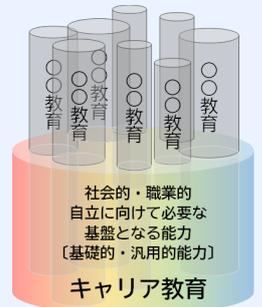
# キャリア教育を進める 5つのヒント

## 1 今ある教育活動を生かしてキャリア教育を進める

社会的・職業的な自立に向けて必要な基盤となる能力（基礎的・汎用的能力）を育むのがキャリア教育です。

キャリア教育といわれる「〇〇教育」の多くは、社会の形成に参画するための力を育成するという点において共通しています。別個の存在としてバラバラにとらえるのではなく各学校で取り組んでいる「〇〇教育」を生かしながら、キャリア教育を充実させることができます。

参考 キャリア教育をデザインする「今ある教育活動を生かしたキャリア教育」（文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）



## 2 基礎的・汎用的能力のフィルターを通して教育活動をとらえる

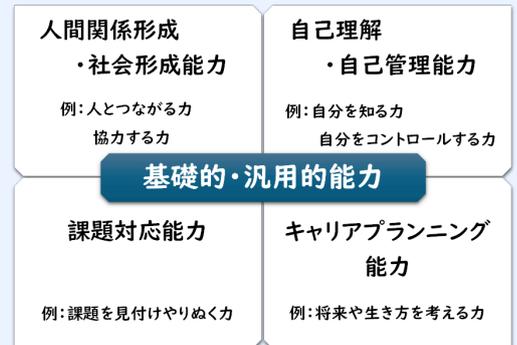
基礎的・汎用的能力のフィルターを通して教育活動を捉えると、下の例のように様々な場面で共通する力を育むことができます。

## 3 育みたい力を焦点化する

基礎的・汎用的能力のうち、特に育みたい力を焦点化し明確にすることで、共通する力を育む場面をイメージしやすくなります。

4つの基礎的・汎用的能力は関連しており、1つの力を伸ばすことで、他の力も引き上げられると考えられます。

さらに、焦点化させた力を、分かりやすい言葉で表現すると、校内のみならず児童生徒・保護者・地域の方々との共通理解を図りやすくなります。



（例）「（分かりやすく）伝える力」【人間関係形成・社会形成能力】

- 国語科の学習・・・どのような順番で情報を伝えと、他者に分かりやすく伝わるかを意識させる。
- 話合いの場面・・・理由や根拠を基に、自分の意見を分かりやすく話すように声をかける。
- 発表の場面・・・分かりやすく伝えるための工夫を考えさせた上で発表させる。

## 4 「キャリア・パスポート」は、児童生徒が自身の変容や成長を自己評価するためのポートフォリオと考える

今ある教育活動の中で、児童生徒に自身の変容や成長を実感させたり、振り返って自己評価をさせたりしている場面には、どのようなものがありますか？例えば、目標設定をさせる場面、1年間の振り返りをさせる場面、自身の適性や希望の進路等を考えさせる場面…等が思い浮かぶのではないのでしょうか。

そのような変容や成長を実感させたり振り返らせたりする場面で、ポートフォリオである「キャリア・パスポート」を活用することは、児童生徒が自己の生き方や進路を真剣に考えることにつながります。

参考 「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項（文部科学省）  
「キャリア・パスポートって何だろう？」（文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）

## 5 実践事例や既存の資料を参考にする

実践例を知ることで、自校に合ったキャリア教育の在り方をイメージしやすくなります。

このリーフレットで紹介している実践例以外にも、前ページの下段で紹介している兵庫県教育委員会の「キャリア教育研修パッケージ」のWebページや、文部科学省のキャリア教育「先生応援ページ1（手引・パンフレット等）」のWebページ等で多くの実践事例を見ることができます。他校種の実践も参考になるのでぜひご活用ください。



# 兵庫版「キャリア・パスポート」

## 活用 のための 事例とヒント

活用の  
ヒント

### 学びをつなげる



小学校5年生

#### 自然学校をふり返って

自分の役わりがとても大切だと思いました。  
まわりにたよらず、自分で考えて行動することができるようになりました。



#### 「自然学校」

今の学びが将来にも役立つんだと学ぶことの意義を実感してくれるとうれしいね

例えば自然学校とトライやる・ウィーク、インターンシップ... ばらばらな活動に見えるけれど

学びが繋がっていることに気付いてほしいね



中学校2年生

#### トライやる・ウィークで学んだこと

社会に出ても、あいさつや礼儀がとても大事だと実感しました。  
働く体験をしたり、働いている人の話を聞いたりして、働くというのは人の役に立つということだと思いました。



#### 「トライやる・ウィーク」

自分の役割をしっかりと果たすことは、大人になって働く時にも大切だな。

#### インターンシップ等による 進路の選択や 将来設計

活用の  
ヒント

### よさや可能性の認識



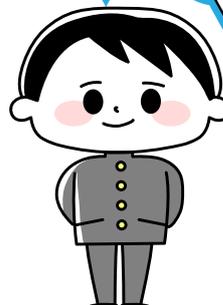
「キャリア・パスポート」で子ども達は自分のよさや可能性を認識することができますね



高校生

小・中学生の頃を振り返ると、自分の役割を責任をもって果たせることが自分のよさだと思いました。

トライやる・ウィークの時には、まだ仕事の実感があまりなかったように思います。  
インターンシップでは、自分の将来を考える上で、「働く」とはということかを真剣に考えたいです。



# 活用事例①

# 児童生徒が見通しを立て、振り返る



## 事例1

### 振り返りや目標設定の場面で

- ・過去に立てた「なりたい自分になるための目標」を振り返る。その目標に照らして今の自分を見つめ直す。
- ・これからの「なりたい自分になるための目標」を設定し直し、目標達成のために伸ばしたい力（焦点化した基礎的・汎用的能力）を考える。



#### 【ヒント】指導のポイント

- 振り返りと目標が往還するようにつながりを意識させる。
- 伸ばしてきた力が様々な場面で生かせることに気付かせる。
- 他者（クラスメイト・保護者・教員等）との対話を通して、自分では気付かなかった視点からも考えられるように促す。
- 過去－現在－未来の自分がつながっていることを自覚させる。



## 事例2

### 体験活動・学校行事の前後に

- 事前・これから行う体験活動や学校行事にどのような気持ちで臨むのかや、頑張りたいこと、学びたいことを明確にする。
- 事後・関連する体験活動や学校行事、あるいは日常の学校生活や家庭生活と結び付けて振り返る。



#### 【ヒント】実践例

- 例：「5年生で頑張りたいこと」を踏まえて、自然学校で何を頑張るかや、伸ばしたい力を考えさせる。
- 例：新入生を迎えるにあたり、小学校6年生の卒業前に書いた「中学生（7年生）に向けた楽しみや不安」を読み返してその時の気持ちを思い返させる。
- 例：トライやる・ウィークとつなげたり、比べたりしながらインターンシップで学びたいことを整理させる。



## 事例3

### 進路の選択や将来設計の場面で

- ・記録を振り返る中で、自己理解を深め、自身の強みや弱みを整理する。
- ・学んできたことや大切にしてきたことを思い返す。
- ・節目で書き記した将来の夢や目標を踏まえ、自己の生き方や進路を考える。



#### 【ヒント】指導のポイント

- 自身のよさや可能性に気付かせ、社会的・職業的自立に向けた意欲につなげる。
- これからの生き方を考えていくための貴重な手がかりとしても活用できることを子ども達に伝える。

基礎的・汎用的能力の  
育成をめざして

### 教育活動全体を通して



学級（ホームルーム）活動(3)  
一人一人のキャリア形成と自己実現

※学習指導要領から

様々な教育活動の中で、  
学校での学びと社会がつながっている  
ことを、子ども達に実感してほしいな



### 兵庫県の特色ある体験活動や 学校行事などを生かして

- ・ 環境体験
- ・ 自然学校
- ・ わくわくオーケストラ教室
- ・ 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」
- ・ トライやる・ワーク
- ・ インターンシップ など



- ・ 運動会や体育大会
- ・ 音楽会や文化祭
- ・ 入学式や卒業式 など

社会や将来へ  
つなぐ



一人一人の社会的・職業的自立へ

# 教職員が 児童生徒理解 の一助とする

担任する児童の「キャリア・パスポート」を年度初めに見るようにしています。これまでの頑張りや反省が書かれていて、どのように成長してきたかを知ることができるからです。また、この先中学校や高校の先生方に、それぞれの児童の個性や成長ぶりを知ってもらうこともできると思います。

【小学校教員】

保護者を交えた個別面談の場で生徒が「キャリア・パスポート」を基に、自身の振り返りとこれからの目標を話します。保護者の方にとっても、子どもの姿容や成長を感じられる良い機会になります。また、意義を伝え、学年末にコメントを書いてもらうことを依頼することもできます。

【中学校教員】

高校に入学してすぐの生徒は不安が大きいため、早い段階で教育相談をしています。その際に「キャリア・パスポート」を用いて、中学校で頑張ったこと等について話を聞くことができます。

また、何に興味・関心があるかも分かるので、とても話がしやすいです。

【高等学校教員】

※他にも学級活動・ホームルーム活動以外の教科・科目や学校行事、帰りの会やショートホームルーム等での活用も考えられます。

## 学びを深めるヒント

ヒント①

「見通し」と「振り返り」の **積み上げ**

ヒント②

教員の **対話的** な関わり

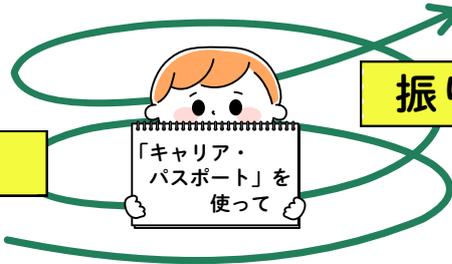


「見通し」と

「振り返り」の積み上げ

新たな学習や生活への意欲につなげたり将来の生き方を考えたりする。

**見通し**



**振り返り**

自身が体験したことや感じたこと等を振り返り、整理する。



教員の対話的な関わり

- ・児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援する。
- ・個性を伸ばす指導へとつなげる。

<対話的な関わり<の例>



生徒

トライやる・ウィークで何をしたい?と聞かれても、どういう仕事が自分に向いているのか分かりません…。



教員

「キャリア・パスポート」を読み返して、小学生の時に書いた将来の夢とか、今までに頑張ってきたことを振り返ってみると、何かヒントが見つかるかもしれないよ。



生徒

小学生の時に書いた将来の夢はその時々で変わっているけれど、みんなのためにがんばりたいと思って係や委員会の仕事をがんばっていたことを思い出しました。



教員

それはいいことに気が付いたね!誰かのために頑張りたいという気持ちをもち続けているんだね。じゃあ、人と関わる中で、自分の力を発揮できそうな事業所を探してみるのはいかがでしょうか。



さらに「キャリア・パスポート」活用事例やヒントを知りたい方はこちらへ実践事例や手引き・パンフレット等が掲載されているWebページ

兵庫県教育委員会  
「キャリア教育  
研修パッケージ」



文部科学省  
キャリア教育  
「先生応援ページ1」



国立教育政策研究所  
実践に役立つ  
パンフレット

